

新広島市民球場建設に併せた広島市内活性化計画

広島大学 交通工学研究室 小野 隼人, 杉浦 祐二, 辻 大樹, 住吉 祐志, 吉野 大介

新広島市民球場建設

広島市民球場は昭和32年の開設後48年が経過し、施設が老朽化しており、観客やサービスや選手諸室等の機能面でも多くの課題がある。また、チームの低迷などの原因により広島市民球場における1試合平均観客動員数は約14400人(2005年)であり、12球団中10位と非常に少ない。12球団平均が約23000人であることと比較しても、10000人弱も少なく活気が足りないといえる。さらに、2005年の年間観客動員数は約100万人であり、目標である150万人には程遠いのが現状である。

このような状況の下で、2004年のプロ野球界の再編論議により、市民・県民や経済界において新広島市民球場建設の機運が高まった。そして、広島駅から南東方向約600mに位置しているヤード跡地において、2009年度までに新広島市民球場が建設されることが決定した。

しかしながら、観客収容人数等の新球場自体に関する項目のみならず、最寄のJR駅である広島駅から新球場までのアクセス交通手段や新球場周辺地区の整備等に関しては未だ審議中であり、計画が確立していない状況である。そこで、今回我々は新球場建設に併せた**球場周辺地区の活性化、球場の集客能力の強化**に関する提案を行う。

新球場建設に関わる問題点及び提案

1. 広島駅-新球場間にLRTを導入

現状のまま新球場が建設された場合、最寄の駅である広島駅から新球場へのアクセス交通手段は徒歩のみになる。しかし当区間の距離は1km程度あり、徒歩で新球場に行った場合、約15分程度かかる。高齢者、身障者は長距離歩行を忌避する傾向が強いと考えられるため、このままでは新球場が有する観客動員能力を低下させる原因になることが予想される。そのため、新たにアクセス交通を設置する必要性が生じる。

そこで今回我々は新たなアクセス手段として**LRT**に着目する。現在広島市中心部には路面電車が整備されており、グリーンムーバー、グリーンムーバーmax等のLRTも運行されている。このLRT路線を新球場まで延長させ、球場まで直接乗り入れさせることによって、広島駅からのアクセス性を向上させる(図1)。

更に、LRT利用の促進を図るため、LRT乗車券と野球観戦チケットの組み合わせによる割引制度やLRT車内でのチケット販売等を行う。また、LRT乗車券売り場で観戦チケットを購入できるシステムを構築することで球場付近の混雑の緩和が期待できる。

2. 球場周辺地区の整備

広島駅正面付近は近年再開発事業が進んでいるが、まだまだ老朽化した建物が目立ち、また、球場周辺は商業施設がほとんど立地していないため、新球場入り口という位置づけとしては魅力に欠ける。

そこで、新たな観光スポットにもなる今までの広島圏域には無いような地区に整備しなおすことが望ましいと考え、1で述べた**LRT路線を活用したトランジットモール**を建設することを提案する。モールはJR広島駅から新球場までの約1kmのLRT路線に沿って形成し(図1)、この実現によってトランジットモールという新たな観光資源が生成されるだけでなく、歩行者の安全確保及び同地域の活性化を図ることができると考えられる。

● ハード面の政策

トランジットモール内を再開発し、地元住民及び観光客にとって魅力ある商店街を新設することによって地域の活性化が見込まれる。観戦後に立ち寄ることができる夜遅くまで開いている飲み屋、屋台やカーグッズ店等があると野球観戦者にとって魅力的であろう。

また、景観・デザイン性に優れた商店街にすることで若者から高齢者までの全年齢が集う新たな観光スポットとなることが期待される。例えば有名建築家による設計、広島土地特性を活かした設計にすることなどが挙げられる。

● ソフト面の政策

商店街は地元住民、観光客双方に魅力のあるものであることが望ましい。また、球場と連携した経営体制を組むことによって相乗効果が生み出されることが期待される。

(1) 地元住民に対する特典

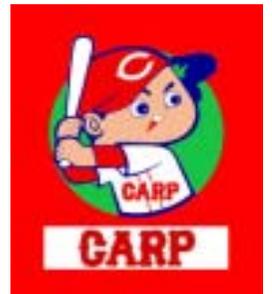
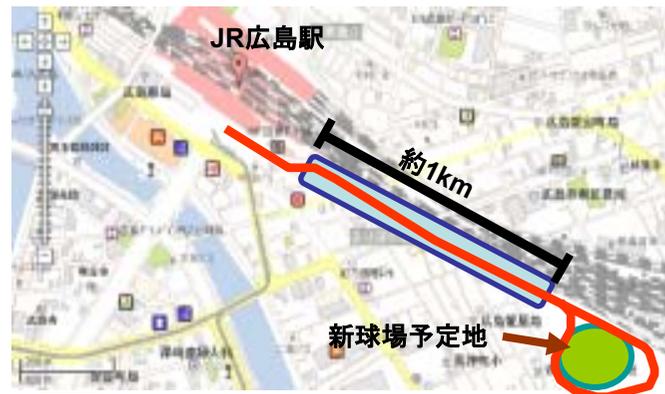
商店街全店舗共通のポイントサービスを導入する。買物をした際にポイントが貯まり、貯まったポイントを野球観戦チケット等と交換する制度を採ることで地元住民にとって魅力のある商店街にすることができると考えられる。

(2) 観光客に対する特典

ツアー旅行者等を対象に観光客割引を行ったり、商店街内の施設を廻るスタンプラリーを行って賞品を獲得できるようなキャンペーンを行うなどして観光客に対する満足度を高め、商店街内の周遊を促進する。

3. 新球場を複合施設に

新球場は敷地面積が現在の広島市民球場の約2倍にあたる約4800㎡と計画されており、この面積は東京ドームと同等の規模である。個性ある球場を建設するために、この広大な土地を活かし、球場のみでなく買物施設や娯楽施設、宿泊施設等を併せ持った複合施設にしたり、球場周辺に公園や緑地を設置し、市民に開放することによって**球場施設自体に野球観戦以外の魅力を持たせる**ことができる。その結果、球場の動員数を増加させることができると考えられる。



■ LRT路線 ■ トランジットモール

図1. 新球場公共交通アクセス (出典: Google ローカル)